

年頭のあいさつ



さつま町長

井上章三

皆さん、明けましておめでとうございます。

平成19年の新しい年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

昨年はこれまで経験したことのない大規模な災害を受けましたが、皆様方の温かいご支援と絶大なご協力によりまして、災害復興等にいち早く着手できましたことに厚く御礼申し上げます。

また、災害発生直後から心温まるお見舞いや激励と救援物資並びに義援金、更には多くのボランティアのご協力を

賜りましたが、被災者に代わりまして改めて心から感謝申し上げます。

被災地の未だ改修の目処がたつていない家屋や岩肌が露出している護岸等を目の当たりにしますときに、当時の惨状が生々しく蘇ってくるようでありますが、被災された方々の一日も早い復旧をお祈り申し上げる次第であります。

更に、川内川の抜本的な災害防止対策につきましては、いよいよ本年から河川激特事業と鶴田ダム再開発事業により本格的な調査・設計が着手されますが、被災地区住民のご意見やご要望を十分にお伺いしながら、最善の抜本的改修になるように不退転の決意で推進を図って参りますので、町民の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

ところで「平成の大合併」という大きな時代の転換期の中で「さつま町」が誕生してから早いもので2年が過ぎようといったしておりますが、本町は旧三町の長い歴史の中で培われてきた伝統や文化を受け継ぎながら、郷土愛に満ちたそれぞれの特性を活かし、さつま町の将来像であります「人々が織りなす元気で快適な活力あるまち」、更

には、この地域に住む皆さんが公平感と一体感が持てる「住んで良かったと思えるまち」の実現を図ることを、私どもに与えられた最大の使命とし、町政運営に努めているところであります。



北薩広域公園ジャンボ門松

しかしながら、少子高齢化が急速に進展する時代にあつて、国の構造改革や三位一体の改革、地方分権の進展などにより、地方を取り巻く情勢は大きく変化してきております。

特に地方自治体の財政運営にとって

最たる財源であります地方交付税については、人口、面積等を主とする「新型交付税」の導入が検討されており、算定基準の内容如何によつては大幅な交付税の減少が予想されるところであります。

更には、税財源に対する国から地方への移譲、道路特定財源の一般財源化による社会基盤整備の遅れなどが懸念されるところであります。

このように国、県が権限移譲や税財源移譲など行財政改革を推進する一方で、地方自治体自らが解決していかねければならない課題も山積いたしております。

昨年は、新町の総合振興計画及び行財政改革等の計画策定後の初年度でありましたが、災害により一部計画変更を余儀なくされておりますことから、「亥年」にあやかり、本年は災害の本格的復興はもとより、新しい町づくりに向けて職員一丸となり、邁進していきたいと考えております。

また、私どもの「さつま町」が全国に誇れる町となるよう、一步一步基礎を固めながら一層の努力を傾注してまいります。

年頭に当たり町政に倍旧のご支援とご協力をお願いし、本年が皆様にとりまして最良の年でありますように、ご祈念申し上げ年頭のあいさついたします。